

手作りの朝礼台 被災地小学校へ

茨木工科高校生ら寄贈

府立茨木工科高校（茨木市春日5丁目）の生徒が作ったアルミ製の朝礼台2台が、宮城県石巻市の小学校に寄贈される。東日本震災の被災地で使ってほしいと完成させ、4日朝、トラックに積まれて学校を出発した。8日までに現地に届けられる予定だ。

朝礼台は縦1・2メートル、横1・8メートルで高さは80センチ。3年生14人が実習の授業で週3時間取り組み、10カ月かけて作った。設計からアルミの裁断、組み立て、溶接までを手がけた。

同校は2002年からほぼ毎年、実習で作った朝礼



朝礼台をトラックに積み込む生徒たち―茨木市春日5丁目の茨木工科高校

台を地域の幼稚園や小中学校に寄贈してきた。今年は震災の被災地へと考え、PTA会長の藤田城光さん（56）が石巻市の出身であることから、石巻市立の釜小学校と大街道小学校に贈ることになった。藤田さんによると、両校は津波で1階部分が水につかり、朝礼台は今もさびて使えない状態だという。

3年の戎藤仁浩君（18）は「石巻の学校で喜んで使ってもらえるよう、考えながら作った。少しでも役に立ててもらえたらうれしい」と話した。（村井七緒子）